

理事長報告

大肢協「中長期計画策定合宿」

合同研修会

2023年1月21日(土) 於ドーンセンター

今回の合同研修会は、最終的に法人の「中長期計画」を策定するためのもので、今回は、その第1回目です。各事業所から24名の職員が集まり、法人の将来像について話し合いました。メンバーは、主任を中心に、希望者は、自由参加としました。業務を離れて、各事業所の職員が一同に会して行う研修会は、初めての取組です。

研修の冒頭に、まず、私からは、主に「ガバナンス」「マネジメント」について、レクチャーしました。「マネジメント」については、ドラッカーの言葉から引用して説明させてもらいました。

現状の認識として、次の3点を強調しました。

- ① 法人は、プロパーが運営する新しい時代を迎えた。
- ② 新しい取組、事業への挑戦が期待されている。
- ③ 困難を乗り越える「チーム力」が試される時代に入った。

続いて、松井事務局次長より「世界情勢や日本が抱える社会問題」「法人の理念」「職員の年齢構成、勤続年齢、離職率」「法人の財務状況」等の説明がありました。

その後6人の小グループに分かれ、SWOT(スウォット)分析(※1)の手法を用いて、法人内外の強みと弱みの要因を分析しました。様々な観点から「強み」と「弱み」が、模造紙に張り付けられていきました。

準備も入れて朝9時から17時まで、丸1日の研修でした。

日頃顔を合わす機会の少ないそれぞれの事業所の職員が一同に会して交流できたこと。また、日常業務を離れて、改めて自分たちの事業、法人の事業の将来について、考える機会を持てたことは、大変有意義でした。

ドラッカーの「弱み」や外的な「脅威」についてのとらえ方について紹介します。

「あらゆる企業が、隠れた機会持ち、あるいは弱みを機会に変えることができるということではない。しかし、機会をもたない企業は、生き残ることができない。そして、潜在的な機会の発見に努めない企業は、その存在を運に任せなければならない」

「あらゆる関係者が起こりえないと知っていることこそ徹底的に検討しなければならない。起こりえないことが、自社にとって何かを起こすための大きな機会となる」(創造する経営者より)

「脅威」は、変化によって訪れますが、そこに"蟻の目"と"鶚(みさご)の目"で挑んでいくポジティブな姿勢こそが大切なのだと思いました。

私達の努力は、利用者さんの笑顔のためです。長い法人の歴史の中で、受け継がれ培われてきた利用者の幸せに価値を置く姿勢こそが、他社にまねのできない我々の大きな強みとになっていくのだと思いました。

※1 SWOT 分析とは

目標を達成するために、意思決定を必要とする組織や個人が外部環境や内部環境を強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の4つのカテゴリで要因を分析し、事業環境変化に対応した経営資源の最適活用を図る経営戦略策定方法の一つ。







